

演題名	パソコンを利用する職員における印刷ミスの削減		
施設名	介護付有料老人ホーム ライフケアガーデン熱川	(ふりがな) 発表者(職種)	(いしい たかゆき) 石居 孝幸(営繕)
(ふりがな) チーム名	(ペーパーけいぶ) ペーパー警部		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	ペーパーレスが進む中で、それでも減らない印刷ミスの再利用メモに着目。そして、看護課に介護課、栄養課や営繕にはパソコンの扱いに不安がある職員が多いことから、『印刷ミスの削減』をテーマとし、経費削減に取り組む。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 本館看護・本館介護・栄養・営繕の印刷用紙発注枚数 (目標値) 合計2,000枚削減する(2月～5月)		
実施した対策	①プリンターに印刷コストを明示。 ②プリンターの印刷面のテプラを貼ることで「試し刷り」の削減。 ③スモールパソコン研修にて、印刷プレビューの見方、設定の変え方を周知する。 ④スモールパソコン研修にて、エクセル、ワード、ウェブサイトの印刷時の問題を解決。		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前)理解していない状態で印刷している職員は43%。パソコンが使えない職員は36%で、79%の人はパソコンになじみがない。印刷できると申告した21%の職員のうち、89%は無駄なページまで印刷。 (実施後)パソコンを使う職員はコスト削減の意識が100%になる。印刷物は23年と24年の同月で比較し、23年の印刷ミス2,000枚を超える3,500枚の削減に成功。インク代含め約10万円削減の見込。		
歯止めと 標準化	【歯止め】毎月コストシールの見直し 【標準化】コピー用紙の発注数が下がっていくか確認 【教育】スモールパソコン研修の定期的な開催		
活動の種類 ※複数選択可	③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 石居 孝幸 営繕
活動の場 ※複数選択可	②支援部門 ③管理部門		2 片上 和子 看護師
活動期間	2024年2月～6月		3 稲葉 都子 介護福祉士
リーダー名 (職種)	大川 雄一(営繕)		4 佐藤 基樹 介護福祉士
活動回数	11 回		5 岡本 幸雄 調理師
			6 中山 千佐都 管理栄養士
		7 有賀 広美 調理員	
		8 杉原 瑠衣 事務	
		9 大川 雄一 営繕	
		10	
		11	
		12	
		13	

【現状把握】



現状把握①

2023年 2~5月

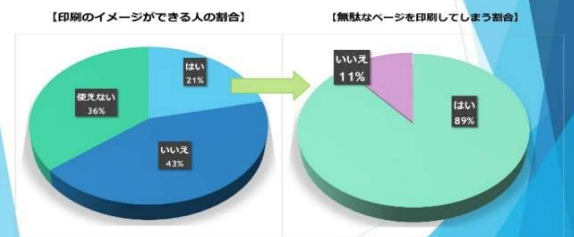
部署	PC使用者	発注数	枚数	発注金額	ミス印刷 平均枚数/月 ※ 4か月	印刷ミス 金額
本館(看護・介護)	看護4名 介護9名	8冊	4,000枚	¥3,200	1300枚	¥1,040
本館・別館 栄養	4名	12冊	6,000枚	¥4,800	400枚	¥320
営繕	3名	8冊	4,000枚	¥3,200	300枚	¥240
合計	20名	28冊	14,000枚	¥11,200	2000枚	¥1,600

1冊 = 500枚 A4用紙1枚0.8円として計算 (2024年5月アスクルの価格)

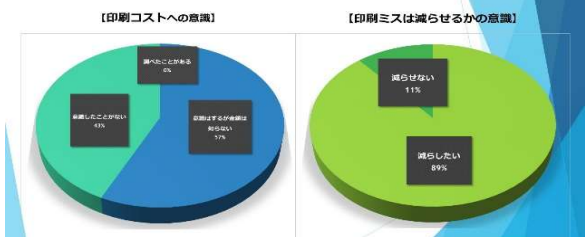
2024年2月に各部署に印刷ミス入れBOXを設置。検証した部署の平均で、1人当たり平均約25枚/月の印刷ミスが発生。その検証データをもとに、過去の印刷ミスの割合を算出しました。



現状把握②



現状把握③



【目標設定】



目標設定

- ◎いつまでに・・・ 5月末までに
- ◎何を・・・ 本館看護・本館介護・栄養・営繕の印刷用紙発注枚数を
- ◎どのように・・・

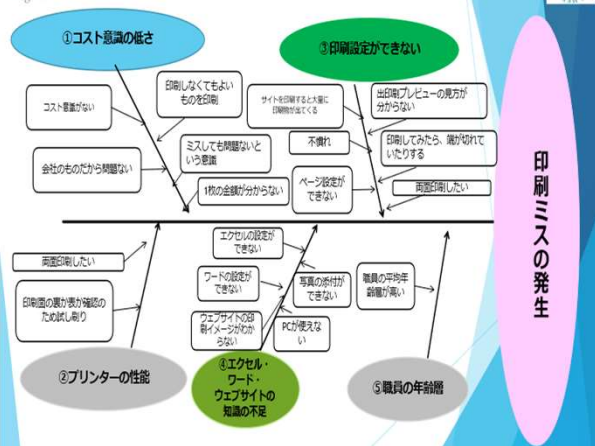
合計2,000枚削減する！(2月~5月)

根拠：昨年の同月推計印刷ミスが約2000枚のため。  
A4用紙代が1600円(1枚0.8円)。  
インクジェットプリンターのインク代(施設内平均)  
白黒印刷3円 カラー印刷15円  
白黒：カラー印刷の割合が5と仮定すると、19,600円(年間58,800円)の削減

【要因解析】



要因解析



重要要因の検証

- ① コスト意識の低さ
- ② プリンターの性能に関する知識
- ③ 印刷設定が出来ない
- ④ エクセル・ワードウェブサイトの知識不足

重要要因と判定

## 【対策の立案と実施】

**対策の立案と実施①**

対策項目	なぜ	何を	いつ	どこで	誰が	どうする
① 各プリンターの印刷コストを知る	職員が印刷物1枚のコストを把握する為	印刷コストの情報を	すぐに	プリンター設置場所	看護介護栄養各課	プリンターに印刷コストを貼る
② プリンターの性能に対する知識	印刷面のミスを防ぐ	印刷面の情報を	すぐに	プリンター設置場所	看護介護栄養各課	プリンターに印刷面情報を貼る
③④ パソコンに詳しくない	パソコンをよくわからないまま使っている人が多い	パソコンに関する研修を	5月までに	施設内で	事務室	研修を行う

### 対策の立案と実施②

★各部署に設置されているプリンターにコストを明示することで、印刷物1枚1枚にコストがかかっていることを意識してもらおうとした。

★併せて、印刷面の情報をつけることで「試し刷り」をしないように意識してもらった。



### 対策の立案と実施③

★PC印刷設定や、日々の困りごとに関する「スモールPC研修」を実施。1回15分程度で、PCの設定画面やエクセル・ワード・インターネット開覧などに慣れてもらうようにした。



## 【効果の確認】

### 効果の確認①

印刷した時のイメージができますか？

必要のない印刷を減らせそうですか？

研修開催後の印刷イメージができる職員は研修前の21%から75%にUP!

研修開催前の印刷物を減らしたいという意識が実行に移せるようになった!

### 効果の確認②

【コストへの意識】

PCを使用できない人の意識を変えることは難しかったが業務でPCを使う人は100%コストを意識するようになった

86%

### 効果の確認③

部署	2023年2月～5月		2024年2月～5月		比較	
	発行部数	発行金額	発行部数	発行金額	4か月間の削減比較	削減額
本館(看護)	8,100枚	6,480円	7,600枚	6,080円	-500枚	¥400
本館・別館(食養科)	1,900枚	1,520円	1,300枚	1,040円	-600枚	¥480
施設管理	3名	8,400円	2名	1,600円	-200枚	¥1,600
合計	20名	16,800円	21冊	8,400円	-350枚	¥2,800

印刷用紙の発注数は前年と比べて3,500枚の削減。  
 昨年の印刷ミス枚数2,000枚  
 1,600円を超える2,800円の削減に成功!

削減したA4用紙代が2800円(1枚0.8円)  
 インクジェットプリンターのインク代(施設内平均)  
 白黒印刷3円 カラー印刷15円  
 白黒: カラー印刷の割合が5:5と仮定すると、34,300円(年間102,900円)の削減



【効果の確認】



# 効果の確認④



## ★有形効果

- ・印刷物1枚1枚に対するコスト意識が芽生えるようになった。  
「印刷プレビュー」から印刷物をイメージし、必要に応じた設定を行なえるようになった。

## ★無形効果

- ・PC研修を複数部署にまたがって実施することで、研修内容が話題になり、コミュニケーションのきっかけになった。

## ★波及効果

- ・印刷物以外の消耗品に対してもコストを意識するようになった。
- ・PCの前に座っている時間が短くなったことで、ほかの業務にも手が回るようになった。  
→スピード感のアップ！
- ・1枚の印刷物で細かいデータを共有できるようになった。  
→情報共有で親身な対応！
- ・PCに興味を持つ人が増えた。（文字入力ができない、自信のない人が50%だったが、もともとPCが好きな人と興味が出てきた人を合わせると、93%になる）  
→何歳になってもチャレンジ！

【標準化と管理の定着】



# 標準化と管理の定着



なぜ Why	何を What	誰が Who	何処で Where	どのように How to	いつ When
標準化	コストシールを	各部署担当者が	各部署プリンターにて	定期的に見直し	毎月
管理の定着	印刷用紙を	発注担当者が	発注用紙にて	発注数を確認する	毎月
教育	PCスキルの均一化を	TQMメンバーで	各部署にて	情報共有する	毎月

【反省と今後の進め方】



# 反省と今後の進め方



手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
テーマ選定	様々なアイデアが出た		印刷物全体に目を向けていく
活動計画	多部署で役割が分担できた	コロナでの活動休止・退職者・休職者がいたことで活動が思うように進まなかった	継続して行なっていく
現状把握と目標の設定	コスト意識と、コストを下げられるスキルが必要と考えられた	印刷ミスのカウントの段階で、カラー、白黒の割合や部署ごとの印刷ミスの枚数が出せればよかった	データの取り方を工夫する
要因解析	多くの職員から意見が聞けた	あまり時間が取れなかった	集まれる時間が作れるよう工夫する
対策の立案と実施	コストを下げるうえで、今まで聞くに聞けなかった基本的な情報を共有できた	正確なデータが取れるような工夫、研修回数を多くする工夫ができればよかった	多部署との連携により、収集データの精度を上げていく
効果の確認	波及効果が大きかった	より明確な数値として情報を収集できればよかった	有形効果・波及効果を高めていきたい
標準化と管理の定着	コスト削減は面白いという意見があったもともとパソコンをを使っていたという意見もあった	パソコンは使わないと使い方を忘れてしまう	情報を共有し、質問しやすい環境を作る